

# ごっこ遊び

## 天 方 て い 子

幼児は、周囲の社会、家庭を模倣して楽しい遊びを展開します。

そしてその遊びの展開、活動、深まりは、環境、生活、経験によってそれぞれ変ったものになります。しかしどの子どもにもその子なりに心理的発達の中から、ごっこ遊びは欠かすことのできない大事な経験であり、これを経なければ次の段階において育つものがうまく培われていかないという大事な遊びの一つであります。それで、ことさら教師が意図して場をつくったり助言をしなくても、幼児自身が遊びの中で仲間と相互に、ごっこ遊びに夢中になって充分に楽しんでおります。この場合でも、教師は知らん顔しているのではなく、助言の必要な時はするわけです。

けれども、このごっこ遊びをさらに豊かにふくらませてどの子ども、より活発にそして、広い総合保育活動の場に参加して、さらに

遊びを豊富な経験とするには、ある時は教師が積極的にとりくむ機会があってもよいと考えます。

それで今回は教師が意図的に総合活動の場として考えて出発したごっこ遊びが、どのように発展していったであろうかといった実際のようなすを記録してみました。

宮津市の商店街では、十一月末のえびす市にひきつづき十二月にかけて年末の大売り出しで町は大変にぎわいます。子どもたちはその町中を通して登降園するわけです。お店の前に立止ったり、見たり、のぞいたりしながら売出し風景を身近に感じております。それで身近に経験していることなので、これをごっこ遊びとして取り上げると、生き生きとした活動がなされるのではなからうかと期待して「お店ごっこ」として主題にとりあげました。

## 主題「お店(ごっこ)」

### ・教育的なねらい

これは総合活動の場であるために特にどの領域のねらいを強く出したらいかがが、はつきりきめられませんが、社会と絵画製作の領域からねらいとしておさえてみますと、遊びにより集団生活に協力する態度を養う、いろいろな物を製作し、工夫創作のよるこびを味わわせる。また、売り買いするところでは自分で考えてものを選択するとか、五円のお金で五円のものを買うとか、思考力の芽生えも増いたい。

・園全体(年長五組)の行事として十二月下旬に遊び室(五十五坪)を商店街にしつらえ大売出しをする。

・それまでに用意するもの

各組一人が三点ずつ商品となるおもちゃ、果物、野菜、花などつくる。各組おもちゃでも同じ物でなく種類がちがうので十五種の品物が五〇〇点ほどできる。

それに五円、十円、百円と値段をきめる。看板、飾りつけ、店の配置、積木、ダンボール箱、机を並べ集まった個々の品物を並べる。

・壇上にふくびきの場もつくる。



る。(園内放送を用いる)

お金もこしらえて五円、十円、百円の品を自分で選んで三点まで買える。

以上はお店屋ごっこにつき先生方で案をたて、計画をし、そしてこれに参加すべく各組は組々でそれぞれ出発から売り出しまで十日

ふくびき用の品物は全員分、本屋さん、紙屋さんから本のふろく、文具の半端物、絵本その他いろいろと寄付してもらおう。

・売り出し日

各組より四名計二十名売り屋さんを出し、位置につく。残りは買う側にする。

買う側は混雑をさけるため約束をする。

順番に買い出しに来

間にもりあげてくるわけです。次に一組の例をあげてみます。

### 紫組 クラスの概況

男十七名、女二十一名、計三十八名、IQ 男一〇八、女一〇七  
父の職業 勤人五八パーセント、商業二四パーセント、その他一  
八パーセント

クラスの中に特にこれといったリーダー格もなく、また、特に横  
暴な子もなく平凡なクラス。全体的に見て今少し積極性が欲しい。

### ○展開

- ① えびす市、年末売り出しのにぎやかな町  
の様子を話し合う。
- ② 売り出しの町を見て歩く。
- ③ 絵を描く。
- ④ お店ごっここの歌を歌ったり言葉遊びをす  
る。
- ⑤ お店ごっこについて話し合う。
- ⑥ 売る品物を考えて作る。
- ⑦ 財布、お金、買物かご、値段札をつく  
る。
- ⑧ お店のかざりつけを考え作る。
- ⑨ お店屋さんになる人を決める。
- ⑩ 遊戯室を商店街にして各組より品物を出  
し合って大売り出しをする。

### 留意点

町のようすを通し  
て地域社会を知ら  
せる。  
社会的態度を養  
う。  
協力してお店を作  
ったり、グループ  
を作ったりする。  
売り買いの挨拶を  
はつきりいう。



### ・反省

- ① 子どもたちはよろこ  
びをもってしていた  
が、園全体（年長五  
組百八十三人）を動  
かしてのごっこ遊び  
であるため範囲がひ  
ろく、本当のごっこ  
遊びのねらいである  
友だちとのふれ合い  
も少なく、発展とい  
うことがむずかしい  
ように思えた。

② 教師の意図の方が先  
に立ったやり方よりも、子どもたちの自発的活動を見守りたい。

③ 子どもたちに、もっとやりたいという意欲が感じられる。

④ 一人ひとりの動きが充分見られない。

以上のことを感じ、子どもたちがこのお店ごっこで経験したいろ  
いろなことを土台にして範囲をしぼり、組単位でも発展させ、一人

ひとり、もうひとつ活発に遊べるにはどうしたらよいか、それには教師は前に出ないで用具を教室の中に備え、折々の助言を心しよ  
うと考えた。

子どもの自発的活動による組のお店ごっこの発展と経過		
教師の配慮	幼児の活動	観察
<p>○お金、値段札を置いておく。</p> <p>○机の配置をかえてグループにわかれるようにしておく。</p>	<p>○絵本、なわとび、かるたなど、室内にある品物を机の上に並べて、いらっしゃい、いらっしゃい太安売りと販売合戦で大にぎわい。</p>	<p>○売ることに興味があるらしく、わずかずつ商品をわけ合せて盛んに声をあげている。</p> <p>○日頃口数の少ない子も二〜三まじってつられて大声をあげている。</p> <p>○お互いに挨拶もよくやっているようす。遊びの中に入りたくても入れぬ子がある。</p>

<p>○お金をどのようにすれば皆が上手に使えるか話し合う。</p> <p>○グループに入れな い子をさそう。</p>	<p>る。</p> <p>○「銀行を作ってみんなが上手にわけてあげればよい」</p> <p>○積木を立て、窓口をつくり銀行をつくる。そのうちお店の子が「貯金です」といったままったお金を窓口へ持ってきてうまく回転できるようになった。</p> <p>○文字カードを利用してあて物ごっこに発展する。赤いカードを引けば一等、黄色を引けば二等といった工合。</p> <p>○お家ごっこに発展する。ままごと道具、人形を使ってお店屋さんの家族になり、お父さん、お母さん、お姉さん、子どもなどになる。</p>	<p>○銀行になり手が多くてもめたが、どうしてきめるか話し合っていたが、どうとうジャンケンをやりはじめ、そしてきめた。</p> <p>○あて物をするというところに非常に興味があるらしくお金を持って大行列をついている。</p> <p>○お店ごっただけではあきたりなくなつて、家族構成の中でそれぞれ分担をきめて遊ぶ。この頃よりグループのメンバーが割合に固定してき たように見える。</p>
--	--	--



以上子どもたちの活動

と教師の陰の配慮によって相当お店ごっこを楽しんでいたし、今後もし長く続いていきそうである。誰からも制約されずに自分たちで考えたり、ぶつかったりしながら皆と仲よく遊ぶといった、平凡であるが、最も大切なことを学ぶのではないかと思った。グループに入りにくい子どもは、できるだけ入れるように心がけたが、まだ充分に仲間になりきれていない子に、もっと自然にあそびの中に入れるよう、お家ごっこ兼お店ごっこの発展をこころみることにした。

ここでは、消極的な子どもを救いたいと考える教師の意図をもちながら子どもとともに遊びに加わった。

#### ・展開

①室内で売り物になりそうな物を話し合って、洋服(オーバー)、帽子、かばん、絵本、おもちゃ、ままごと、銀行、なわとびと

八つのグループを作る。

②自分の希望するグループ五人にわかれる。

③家族について話し合いグループごとにその役割をきめさせる。

④グループごとに相談して、与えられた紙で、店とか、品物、かざりつけを考える。

⑤ごっこ遊びをする。

#### ・反省

朝から「先生縛つくるよ」「買物かご作るよ」とどびついて仕事にかかる。見ているとグループごとに上手に仕事を分担してどの子も何か仕事をし、誰一人遊んでいる子はない。「おもしろいなあ、きょうは……」といった声も聞こえる。すべての子が自分の役割をはたすべくいろいろと立ち廻っているようだった。お店ごっこの売り買いは相当期間続いているので、お店をひらくまでの準備過程がよろこびに満ちあふれていたようす、お店ごっこからさらにお家ごっこと複数的な遊びに発展していった。このような経過を経ながら、教師と子ども相互の緊密な触れ合いにより、この時代に経験しなければ育たない、いろいろな、心理的な要素が培われていくのではなからうか。子どもの自発的な遊びの発展とともに、教師はおちこぼれないよう保育をするために、たえずいいないな配慮を忘れてはならないと思いました。(京都 宮津幼稚園)